



FUKのガラス張り合わせ装置は真空状態を作らなくても大気中で作業できる

▽本 社 奈良県御所市室1186の12  
 社長 植村光生氏  
 事業内容 液晶パネルやタッチパネルの製造装置の開発や製造、販売  
 従業員 約30人  
 売上高 10億円前後  
 (2012年4月期)

**生産技術に自信**  
 FUKの創業は03年。御所市に近い奈良県橿原市で

かつてはシャープが主要  
 村社長)で、今では海外向  
 が売上高の大半を稼ぐ。  
 例えば、2009年に開  
 発した「大気Bend方式」  
 と呼ぶ独自方法で液晶外側  
 のカバーガラスとパネル本  
 体を張り合わせる装置。新  
 品のスマホに保護フィルム  
 を張るように、ガラスを少  
 し反らせ、ローラーで押さ  
 えながら端の方から張り合  
 わせる。不良品の原因にな  
 る気泡の混入が少ない。従

## 韓台勢と組み 有機EL開拓

入は海外だった。今ではFUK全体の売上高(10億円前後)のうち、AUOなど台湾メーカー向けが8割以上を占める。

最近では有機ELディスプレイなど新規分野の開拓を急ぐ。ここでも技術開発で先行し、パートナーになるのは韓国や台湾のパネルメーカーだ。

「サムスン、LGの両グループも、日本の製造装置なしでは何も作れない」と植村社長は話す。今でも生産技術では日本優位と自信を見せる一方で、「海外メーカーは日本の大手の影響力が薄れた中小企業の高い技術を狙っている」と国内の薄型ディスプレイ関連業界の衰退に強い危機感を抱く。(新田祐司)

# パネル、高精度張り合わせ

顧客だったが、同社の業績低迷で新規投資がとまった。パナソニックなど国内メーカーはどれも事情は同じ。「高い競争力を維持しよう」と、最新機にいち早く関心を示すのは海外勢(植

09年以降は今後も市場拡大が見込めるスマホ、タブレット向けの中小型液晶パネルに焦点を絞り、「大気Bend方式」を利用した張り付け装置などを開発した。「大気Bend方式」は優れた新技術として今年11月に近畿経済産業局から「関西ものづくり新撰(しんせん)」にも選ばれている。

## 中小型の液晶製造装置

# FUK

国内外の液晶パネルメーカー幹部がお忍びで訪れるベンチャー企業が、ツツジの名所・葛城山を望む奈良盆地の南端にある。中小型液晶パネルの生産工程で、ガラスやフィルムなどの部材を高精度で張り合わせる装置を開発するFUK(奈良県御所市、植村光生社長)だ。

### 速く安く正確に

同社の強みは、速く、安く、正確に仕事をこなす装置への信頼性にある。ライバルに先駆けて最新設備を導入しようとする訪問者が引きも切らず、最近では韓国、台湾メーカーの技術者も多い。「海外勢は投資の意思決定が速いうえ、規模も大きい」(植村社長)という。

「小さな巨人」

来は真空状態の中で張り合わせていた作業を大気中でできるのも特徴だ。初期費用を3割減らせ、生産ペースも速くできるという。

この装置は国内大手電機メーカーの依頼を受けて開発した。FUKは主力製品になると期待し、多額の開発費をつぎ込んだ。

創業以来、取り扱う製造装置も自動車のカーナビゲーションに使う液晶パネルの洗浄装置から始まり、テレビ向け液晶パネル用の偏光板張り付け装置、携帯電話向け液晶パネルの洗浄装置と次々にラインアップを強化してきた。



植村光生社長

資本金600万円からスタートした。その後、04年に同県葛城市、06年に現在の御所市へと本社を移転。08年には本社に技術開発拠点を新築するなど順調に業容を拡大し、資本金を創業当時の3倍となる1800万円まで増額した。現社長の植村氏は国内電機大手で製造技術の開発に携わった技術者。目まぐるしく変化する液晶関連の技術動向に明るいのが強みだ。